

「盲導犬所有考えず」55% 日盲社協、視覚障害者を調査

日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）はこのほど、視覚障害者を対象とした盲導犬使用に関する意識調査の結果をまとめた。盲導犬を「今すぐもちたい」または「将来はもちたい」とした人は17%で、「もとうと考えたことはない」（55%）を大きく下回った。

調査は2010年1～3月、リハビリテーション施設などに所属する障害等級1級、2級の視覚障害者を対象に調査票を送り、30都道府県に住む274人から回答を得た。盲導犬をもつうえで、何が障壁になっているか考察することが狙い。

盲導犬をもつことによるプラスイメージの上位は「行動範囲が広がる」、「安全に速く歩ける」、「癒される」で、マイナスのイメージは「世話や手間がかかる」、「盲導犬との離別や死別が辛い」、「お金がかかる」が多かった。

盲導犬希望者と非希望者を比べると、先天性視覚

障害の人は希望しない傾向があること、学生や20～30代の方は希望する傾向があることがわかった。

また、希望者は非希望者に比べて「障害を受けたことで新たに得たものがある」、「病気や障害があっても自分に誇りがもてる」、「障害を受容しているという自覚がある」など人生を前向きにとらえる傾向があることもわかった。

報告書は「単に盲導犬使用を勧めるだけでなく、前段階として生き方、考え方を向上させる必要がある。今後は盲導犬の啓発にとどまらず、カウンセリングや教育を充実させることが重要だ」と考察している。

盲導犬の実働数は現在1,070頭。2005～2009年度は毎年平均153頭育成され、盲導犬使用者も毎年約22人ずつ増えている。

（福祉新聞・第2502号 2010年10月25日）